

## 貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
(資産の部)	1,379,086,803	(負債の部)	1,003,654,657
流動資産	119,035,174	流動負債	565,665,057
現金・預金	57,547,112	買掛金	14,762,402
未収運賃	5,233,660	短期借入金	443,812,000
未収金	1,753,365	未払金	34,066,918
商品材料	11,344,970	親会社未払金	13,315,426
貯蔵品	5,604,651	未払法人税等	19,114,100
前払費用	246,865	未払消費税	17,306,200
その他の流動資産	37,484,551	未払費用	10,034,942
貸倒引当金	△ 180,000	前受運賃	1,158,500
固定資産	1,260,051,629	預り金	1,404,569
有形固定資産	1,157,098,754	賞与引当金	10,690,000
建物	699,872,799	固定負債	437,989,600
構築物	137,613,125	長期借入金	347,604,000
機械装置	233,663,439	退職給付引当金	90,085,600
車両運搬具	73,803,237	その他の固定負債	300,000
工具器具備品	9,892,384	(純資産の部)	375,432,146
土地	2,253,770	株主資本	371,447,801
無形固定資産	1,124,238	資本金	100,000,000
借地権	195,619	資本剰余金	50,000,000
施設利用権	490,217	その他資本剰余金	50,000,000
その他無形固定資産	438,402	利益剰余金	221,447,801
投資その他の資産	101,828,637	利益準備金	37,500,000
投資有価証券	24,912,616	その他利益剰余金	183,947,801
繰延税金資産	33,679,371	繰越利益剰余金	183,947,801
その他の投資	46,486,650	評価・換算差額等	3,984,345
貸倒引当金	△ 3,250,000	その他有価証券評価差額金	3,984,345
合 計	1,379,086,803	合 計	1,379,086,803

「(注) 当期純利益 70,620,022円」

## 個別注記表

### I.重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

投資有価証券

市場価格のない株式等以外のもの — 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等 — 移動平均法による原価法

##### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品材料 — 最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

貯蔵品 — 最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産 — 定率法

但し、鉄道業用設備の機械装置、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

##### (2) 無形固定資産 — 定額法

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

#### 3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により算出した額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

(2) 賞与引当金は、従業員賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。また関連会社からの出向者につきましては当社が負担すべき退職給付に備えるため、関連会社との約定に基づく期末要支給額を計上しております。

#### 4. 収益及び費用の計上基準

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています

#### 5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

##### (2) グループ通算制度の適用

三重交通グループホールディングス株式会社を通算親法人とするグループ通算制度を適用しております。

### II.株主資本等変動計算書に関する注記

#### (1) 当事業年度末の発行済み株式の種類及び総数

普通株式 300,000 株

#### (2) 配当に関する事項

##### ・当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

令和5年6月23日開催の定時株主総会において、次のとおり決議いたしました。

配当金の総額 35,988,000 円

1株当たり配当額 119円96銭

基準日 令和5年3月31日

効力発生日 令和5年6月23日

##### ・当事業年度の末日以降に行う剰余金の配当に関する事項

令和6年6月20日開催予定の定時株主総会において、次のとおり決議を予定しております。

配当金の総額 35,310,000 円

配当金の原資 利益剰余金

1株当たり配当額 117円70銭

基準日 令和6年3月31日

効力発生日 令和6年6月20日

### III.収益認識に関する注記

収益を理解するための基礎となる情報は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「収益及び費用の計上基準」に記載しております。

#### IV.その他の注記

##### 資産除去債務関係

使用している建物等の一部については、不動産賃貸借契約により、事業終了時または退去時における原状回復義務に係る債務を有しておりますが、当該債務に関する賃貸資産の使用期間が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。そのため当該資産に見合った資産除去債務を計上しておりません。